

献 辞

菅壽一先生は、平成20年3月に広島大学教員としての定年を迎えられ、広島大学をご退職された。同時に、本学における研究・教育ならびに大学運営、さらには学界発展へのご功績がきわめて顕著であると認められ、名誉教授の称号を授与されている。われわれ広島大学経済学会でも、長年にわたる菅先生の学部および研究科に対するご貢献に深甚なる謝意を表し、ここにご退職記念論文集を刊行することとした。

菅先生は、昭和44年3月に広島大学政経学部をご卒業後、同46年3月同大学大学院経済学研究科修士課程経済学専攻を修了され、同46年4月広島大学政経学部助手に就任された。以来、平成20年3月に社会科学部研究科教授として退職されるまで37年間にわたり、政経学部、経済学部ならびに大学院社会科学部研究科に勤務された。その間、幅広い学識と高い識見によって学生の教育・指導にあたり、学界、教育界および社会に対して多くの有能な人材を送り出してこられた。とくに大学院教育における菅先生のご貢献は大きく、その指導を受けた多くの院生が、現在各界で活躍している。

この間、菅先生は、経済学部夜間主事、大学院将来構想検討委員会委員長、広島大学評議員を歴任され、広島大学の発展と充実に尽くされた。

ご研究面においては、財政政策研究者として多くの業績を挙げられ、特に「マクロ財政政策理論」に関する一連の研究を發表されて高い評価を得られた。また海外での研究活動としては、アメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校において「マクロ経済政策理論の研究」を通じて理論的・実証的な面で多大な業績を挙げられ、その後の財政政策に関する様々な研究プロジェクトの組織・運営において、指導的な役割を果たされた。教育面においても、『現代財政入門』、『政府経済学』など優れた教科書を出版することにより、後人の啓発に努められた。また広島大学のみならず、中国地方を中心に多くの大学で学生の教育に尽力された。学界においては、日本財政学会、日本経済学会、中・四国商経学会に所属して学会の発展および学術研究の促進に貢献して来られた。社会においては、広島県固定資産評価審議会委員、放送大学客員教授として地域社会の発展と向上に寄与されてきた。

今回のご退職は、経済学部および広島大学にとって誠に大きな痛手であるが、なんびとも如何ともしがたい。広島大学経済学会は、今後も菅先生に温かい目で見守っていただくことをお願いするとともに、ここに深甚なる謝意をもって本論文集を捧げ、先生の益々のご健勝とご活躍を祈念する次第である。

平成20年11月

広島大学経済学会長

吹 春 俊 隆